2026 年 11 月 13 日

「新・せとうち風景 30 選」を選定しました

～50 年後に残したい瀬戸内海の風景～

公益社団法人瀬戸内海環境保全協会は、設立 50 周年記念事業の一環として、瀬戸内海の優れた景観が未来に向けて適正に保全されることを目的に、「50 年後に残したい瀬戸内海の風景」を会員から募集し、沿岸府県の推薦を受けて、選定委員会において「新・せとうち風景 30 選」を選定しました。

平成 8 年の「せとうち風景 30 選」以来、30 年ぶりの選定です。令和 8 年 11 月 13 日(金)に神戸ポートオアシスで開催した「設立 50 周年記念式典」において発表します。

選定の概要

テーマ	自然と人々の営みが融合して形成された瀬戸内海の風景
選定方法	会員から募集し、沿岸府県の推薦を受けて、選定委員会で選定
選定数	30 か所(大阪府 2、兵庫県 5、和歌山県 3、岡山県 3、広島県 5、山口県 2、徳島県 2、香川県 3、愛媛県 2、福岡県 1、大分県 2)

選定委員会(敬称略・50 音順)

大平 和弘	兵庫県立大学 准教授	
坂元 浩	せとうち観光推進機構 専務理事	
中瀬 勲	兵庫県立人と自然の博物館 名誉館長	委員長
西川 絢子	環境省 水・大気環境局 海洋環境課 海域環境管理室長	
日高 健	近畿大学 名誉教授	副委員長

選定箇所の位置



番号は行政順、位置はおおよそです。

新・せとうち風景 30 選（行政順）



① 大阪港

大阪府　大阪市住之江区南港北

茜色（あかねいろ）に染まる大阪湾　未来へ続くベイエリア

大阪湾に沈む夕日が、行き交う船や港湾施設を茜色に染める。人の営みが築いた港と海の自然が溶け合う都市の水辺景観であり、夢洲をはじめ変わり続けるベイエリアとともに、未来へ受け継ぎたい大阪の海の姿である。



② 旧堺港

大阪府　堺市堺区大浜北町

明治の灯台が見守る　自由都市・堺の港

明治 10 年築の旧堺燈台は、現存する木造洋式灯台として国内最古級の国史跡。中世に自治都市として栄えた港の歴史と、夕景の海が一体となった文化的景観であり、港町・堺の記憶を 50 年後へ伝える風景である。



③ 須磨海岸

兵庫県　神戸市須磨区

都市に開かれた白砂の浜　みんなで育てる須磨の海

源氏物語にも描かれた白砂青松の浜は、都市に開かれた身近な海辺。漁業者・市民団体・行政などの様々な主体が連携し、海辺を生かした地域活性化を進める。人の関わりが海の魅力を高める都市型の里海である。



④ 沼島（ぬしま）八幡神社の春祭り

兵庫県　南あわじ市沼島

国生みの島に春を告げる　海へ繰り出すだんじり

国生み神話の「おのころ島」とも伝わる沼島で、だんじりが海へと担ぎ入れられる春祭り。海の恵みに感謝し、豊漁を願う信仰と漁師町の暮らしが、青い海と一体となって受け継がれてきた。島の誇りを未来へつなぐ風景である。



⑤ 鳴門海峡と大鳴門橋

兵庫県　南あわじ市

淡路の岬から見渡す　潮騒の大海峡

淡路島側から、激しい潮流が渦巻く鳴門海峡と大鳴門橋を一望する。紀伊水道と播磨灘を結ぶ海峡の雄大な自然と、人の技術が架けた橋とが調和し、海峡全体のスケールを体感できる。瀬戸内の東の門を象徴する景観である。



⑥ 五斗長垣内（ごっさかいと）遺跡

兵庫県　淡路市五斗長（ごっさ）

弥生の鉄づくりの里　市民の手でよみがえる

瀬戸内海を望む丘陵に広がる弥生時代後期の鉄器生産集落跡で、国内最大級の鍛冶（かじ）工房群が見つかった国史跡。地域住民の参画で復元・整備が進み、民間活力も生かして交流の場となった。海と歴史と人をつなぐ文化的景観である。



⑦ 播磨町古宮海岸

兵庫県　加古郡播磨町古宮

潮風に揺れる干しダコ　播磨灘の漁師町

播磨灘に面した古宮の浜に、潮風にさらされた干しダコが並ぶ。豊かな漁場の恵みを受け、海とともに暮らしてきた人々の営みが息づく漁師町の風物詩であり、自然と生業（なりわい）が溶け合う里海の姿を今に伝えている。



⑧ 雑賀崎地区（番所庭園からの夕日）

和歌山県　和歌山市雑賀崎

斜面に寄り添う漁村　紀伊水道に沈む夕日

万葉集にも歌われるなど、古くから景勝地として知られる港町、雑賀崎。海に迫る斜面を埋めるように家々が連なる風景は、「日本のアマルフィ」とも称される。漁港の営みと人々の暮らしが息づく、50年後にも残したい文化的景観である。



⑨ 有田市箕島漁港（辰ヶ浜）の漁船

和歌山県　有田市箕島

タチウオの港に並ぶ　働く漁船の彩り

タチウオ漁で全国に知られる辰ヶ浜の港に、色鮮やかな漁船がずらりと並ぶ。豊かな漁場に支えられ、海とともに生きる人々の営みがそのまま港の風景となっている。海の恵みと生業が息づく、活気ある里海の姿である。



⑩ 阿尾漁港

和歌山県　日高郡日高町阿尾

クエ祭りの漁村　山と海が抱く入り江

緑の山々に抱かれた入り江に、漁村の家並みと港が寄り添う。大漁を願う勇壮なクエ祭りが受け継がれ、海の恵みとともに歩んできた暮らしと信仰が今も息づく。紀伊水道を望む、自然と漁村が一体となった文化的景観である。



⑪ 鷲羽山からの眺望

岡山県　倉敷市下津井田之浦

多島美と瀬戸大橋　国立公園の原点に立つ

日本最初の国立公園・瀬戸内海を代表する展望地。大小の島々が浮かぶ多島美の中に瀬戸大橋が架かり、自然と人の営みが調和した眺めが広がる。平成８年の選定から変わらぬ魅力を放つ、未来へ引き継ぐべき瀬戸内の原点である。



⑫ 黒島ヴィーナスロード

岡山県　瀬戸内市牛窓

潮が引くと現れる　島と島を結ぶ砂の道

牛窓沖の黒島から小島へと、干潮時にだけ白い砂州の道が姿を現す。潮の満ち引きと浅場がつくる一瞬の景観は、穏やかな瀬戸内の海の豊かさを象徴する。多くの人が訪れ、自然の営みを体感できる多島美の風景である。



⑬ 三郎島（三ツ山）

岡山県　浅口市寄島町

三つの島影と朝日　カキの里の静かな海

三つの小山が連なる三郎島のシルエットが、朝日に染まる海に浮かぶ。カキ養殖が盛んな寄島の海では、釣り人や水辺に憩う鳥の姿も見られ、朝焼けの美しさと穏やかな暮らしが重なり合う。変わらず残したい瀬戸内の朝景である。



⑭ 元宇品の森と海

広島県　広島市南区元宇品町

都心に残る原生の森　広島港に浮かぶ緑の島

広島港に突き出た元宇品は、都心近くにありながら瀬戸内海国立公園に含まれ、自然林が残る緑の島。港を行き交う船と森と海が隣り合い、都市の営みと自然が共存する。守り続けることで 50 年後にも残したい、都市の自然景観である。



⑮ 安浦漁港の防波堤コンクリート船「武智丸」

広島県　呉市安浦町

戦火をくぐった船体　いまは港を守る防波堤に

戦時中に建造されたコンクリート船「武智丸」2 隻が、戦後、安浦漁港の防波堤として据えられた。戦争遺構が今も波から港と地域の暮らしを守り続け、漁港の風景の一部となっている。平和の尊さと地域の歴史を伝える文化的景観である。



⑯ みかん畑から望む瀬戸内の原風景

広島県　呉市豊町大長

島の斜面を彩るみかん畑　海と暮らしの原風景

大崎下島の急斜面に、先人が切り拓いたみかんの段々畑が広がり、その先に穏やかな海と島々が連なる。大長みかんを育んできた島の暮らしと多島美が一体となった、瀬戸内らしい文化的景観であり、未来へ残したい原風景である。



⑰ 安芸津の牡蠣養殖棚と大芝大橋～広島かきのふるさと～

広島県　東広島市安芸津町小松原

牡蠣棚が並ぶ穏やかな海　広島かきのふるさと

穏やかな海に牡蠣養殖棚が整然と並び、その先に大芝大橋が架かる。「広島かきのふるさと」の海は、豊かな漁場の恵みを人々が育て、受け継いできた里海そのもの。生業と自然が調和した景観を次世代へつなぐ風景である。



⑱ 江田島のカキ養殖棚と瀬戸内海

広島県　江田島市沖美町

豊かな海の恵みが育む　地域産業を支える広島湾

広島湾では、豊かな海を活かしたカキ養殖が地域産業として根付いている。海面に広がるカキ養殖棚と筏の姿は、自然の恵みと地域産業が調和している形であり、後世へ引き継いでいきたい風景である。



⑲ 笠戸島（夕日岬）

山口県　下松市笠戸島

島影の間に沈む夕日　人気の絶景スポット

笠戸島の夕日岬では、島々のシルエットの間に沈む夕日が海面を黄金色に染める。夕景を求めて多くの人が訪れる人気スポットであり、笠戸大橋で本土と結ばれた身近な島で、瀬戸内の雄大な夕景を誰もが楽しめる。



⑳ 太華山山頂から眺める周南工場夜景

山口県　周南市栗屋

人の営みが灯す、瀬戸内海の銀河

太華山の山頂から、周南コンビナートの光が海辺に連なる夜景を一望する。工場夜景を単なる人工物の美しさではなく、人々の暮らしや産業がつくり出した景観として表現。ものづくりの歴史と海が織りなす、瀬戸内ならではの新たな景観である。



㉑ 吉野川河口

徳島県　徳島市川内町

大河が海と出会う場所　命あふれる干潟

吉野川が紀伊水道へ注ぐ河口に、広大な干潟とヨシ原が広がる。シオマネキなどのカニ類や渡り鳥が暮らす貴重な湿地が市街地のすぐそばにあり、人々の暮らしと豊かな生態系が共存する。未来へ守り継ぐべき干潟の里海である。



㉒ 鳴門の渦潮

徳島県　鳴門市鳴門町

神秘の渦が躍動する　世界に誇る潮の造形

潮の干満による激しい流れが、鳴門海峡にいくつもの渦を連ねて生み出す。世界最大級ともいわれる渦潮は、豊かな漁場も育む自然の力の象徴であり、国内外の人々を魅了してきた。平成 8 年に続き、50 年後へ残したい自然景観である。



㉓ せとしるべ

香川県　高松市サンポート

海の玄関口に灯る　赤いガラスの道しるべ

高松港の防波堤の先に立つガラス製の赤灯台は「せとしるべ」の愛称で親しまれ、夜には灯台自体が赤く輝いて船を導く。島々への玄関口として人と海をつないできた港の営みと、夕景の海が調和した、高松を象徴する景観である。



㉔ 高松城

香川県　高松市玉藻町

海水をたたえる水城　瀬戸内に臨む城跡

堀に海水を引き込んだ日本三大水城の一つで、玉藻公園として親しまれる。堀では海の魚が泳ぎ、海に臨んで建つ月見櫓が往時の姿を伝える。瀬戸内の海と一体となって築かれた史跡であり、港町の歴史を物語る文化的景観である。



㉕ 棚田（中山千枚田）

香川県　小豆郡小豆島町中山

山あいに重なる千枚田　島の暮らしを映す

小豆島の山あいに、石積みの棚田が幾重にも重なる中山千枚田。湧き水の恵みを生かして先人が築いた田んぼでは、伝統行事も受け継がれる。山から海へと続く水の循環と島の暮らしを映し、未来へ残したい文化的景観である。



㉖ 能島城跡

愛媛県　今治市宮窪町宮窪

激しい潮流が守った　村上海賊の本拠地

芸予諸島の激しい潮流に囲まれた島に、能島村上氏が拠点を築いた海城跡。国史跡であり、日本遺産「村上海賊」の中核をなす。潮流という自然を巧みに生かした人々の歴史が刻まれ、海と島が一体となった文化的景観である。



㉗ 遊子水荷浦の段畑

愛媛県　宇和島市遊子

耕して天に至る　宇和海に臨む石垣の段畑

宇和海に突き出た半島の急斜面に、石垣の段畑が頂上まで続く。先人が切り拓いた畑では今も春ジャガイモが育てられ、重要文化的景観に選定されている。半農半漁の暮らしと海が織りなす、次世代へ伝えたい風景である。



㉘ 浜の宮海岸

福岡県　築上郡築上町高塚

クロマツの緑と白い渚　周防灘の静かな浜

周防灘に面した浜に、クロマツの林と穏やかな渚が続く。青い海とマツの緑が調和した白砂青松の景観は、地域の人々に大切に守られてきた。平成 8 年の選定以来の姿を保ち、50 年後にも残したい瀬戸内西端の海岸である。



㉙ 中津干潟

大分県　中津市沿岸域

命をはぐくむ広大な干潟　人と海がつながる場

周防灘に広がる国内有数の干潟で、カブトガニをはじめ多様な生きものが暮らす。市民や団体による観察会や清掃活動が続けられ、干潟の価値を学び次世代へ伝える取組が根づく。人の関わりが豊かさを支える里海の風景である。



㉚ 真玉（またま）海岸

大分県　豊後高田市臼野

干潟の縞模様を染める　周防灘の夕日

遠浅の真玉海岸では、潮が引くと干潟に美しい縞模様が浮かび上がり、そこに映る夕日が空と海を茜色に染める。夕日の名所として地域の人々に親しまれ、潮の干満と時間がつくる一期一会の、未来へ残したい自然景観である。

お問い合わせ

公益社団法人 瀬戸内海環境保全協会
〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-5-2 人と防災未来センター東館 5 階
TEL:078-241-7720　FAX:078-241-7730